

# 「H3」3号機、打ち上げ成功

## JAXA 先進レーダー衛星搭載

宇宙航空研究開発機構（JAXA）は1日午後0時6分

先進レーダー衛星「だいち4号」を搭載した新型基幹ロケット「H3」3号機を、鹿児島・種子島宇宙センターから打ち上げた。だいち4号は約17分後に予定の軌道に投入され、打ち上げは成功した。

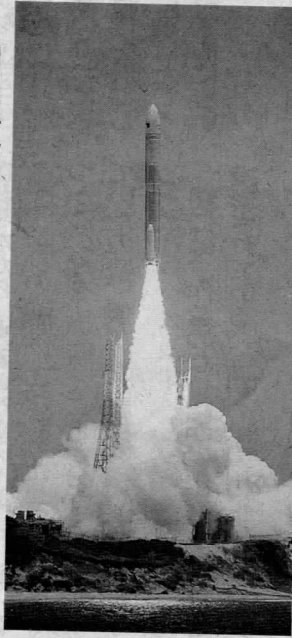
昨年（2014年）の1号機打ち上げ失敗後、実用衛星を載せるのは初めて。今年2月の2号機に続く連続成功で、宇宙ビジネス参入への弾みになりそうだ。

H3は、JAXAと三菱重工が開発を進める2段式液体燃料ロケット。第1段に新開発の液体燃料エンジンを導

入して打ち上げ性能を向上させる一方、部品数の削減や民生品の積極採用などにより、従来のH2Aから大幅なコストダウンを目指している。

昨年3月の1号機打ち上げで第1段エンジンは正常動作したもの、第2段エンジンが着火せず失敗。搭載してい

た先進光学衛星「だいち3号」を失った。電気系統で過大電流を検知したのが原因で、JAXAは絶縁の徹底などの対策を実施した。実用大型衛星に代わって打ち上げ性能確認用のダミー衛星を載せたH3・2号機打ち上げは、第2段エンジン



H3ロケット3号機の打ち上げ1日午後、鹿児島県・種子島宇宙センター

の着火を含め、軌道投入まで成功。JAXAと三菱重工は3号機へのだいち4号搭載を決めた。

だいち4号は2014年に打ち上げられた「だいち2号」の後継機で、三菱電機と

JAXAが開発。夜間や悪天候でも観測可能なレーダーを搭載し、地震や火山活動などによる地盤の隆起や沈降の観測が可能なほか、水害などの被災状況把握にも役立てることができると見られる。